

「優秀施工者国土交通大臣顕彰」及び 「青年優秀施工者不動産・建設経済局長顕彰」について

良質な住宅・社会資本の整備のためには何よりも直接工事に携わる技術・技能に優れた人材が必要不可欠です。また、国民生活の向上に重要な役割を果たす我が国の基幹産業である建設産業にとって、優秀な建設技能者の確保・育成が大きな課題となっています。

国土交通省では、建設産業の第一線で「ものづくり」に直接従事されている方々に誇りと意欲を持っていただくとともに、これらの方々を広く国民に知っていただき、その社会的地位・評価の向上を図っていくことを目的として、特に優秀な技術・技能を持ち、後進の指導・育成等に多大な貢献をされている建設技能者の方々を対象として、優秀施工者国土交通大臣顕彰（建設マスター）を実施しています。

また、次世代の建設現場の担い手を確保・育成すること、建設マスターに達するまでの技術・技能の向上を図ることを目的として、優秀な技術・技能を持ち、今後さらなる活躍が期待される青年技能者の方々を対象として、平成27年度より新たに青年優秀施工者不動産・建設経済局長顕彰（建設ジュニアマスター）を設けました。

建設マスターの顕彰は平成4年度より実施していますが、第29回目となる今年度は455名を顕彰し、建設マスターは計10,984名となります。また、平成27年度より新設された建設ジュニアマスターとして今年度は109名を顕彰し、建設ジュニアマスターは計639名となります。

また、今年度の被顕彰者のうち女性は、建設マスターで8名、建設ジュニアマスターで2名となっています。

※女性被顕彰者の職種

建設マスター：内装仕上工3名、大工1名、塗装工1名、建具工1名、電気工1名、
舗装工1名

建設ジュニアマスター：電気工1名、造園工1名

優秀施工者国土交通大臣顕彰の詳細については、下記のホームページをご覧ください。

http://www.mlit.go.jp/totikensangyo/const/1_6_bt_000062.html

令和2年度被顕彰者の詳細

建設マスター

○ 被顕彰者の年齢構成

	令和2年度	令和元年度	平成30年度
平均年齢	51.3歳	52.2歳	50.7歳
最も多い年齢(人数)	47歳(38人)	56歳(30人)	59歳(30人)
最低年齢	38歳	38歳	39歳
最高年齢	71歳	75歳	68歳
35～39歳の人数	2人	2人	3人
40～49歳の人数	216人	170人	194人
50～60歳の人数	180人	226人	207人
61歳以上の人数	57人	58人	18人
被顕彰者数	455人	456人	422人

○ 被顕彰者の主な職種

	令和2年度	令和元年度	平成30年度
土工	61人(13.4%)	56人(12.3%)	53人(12.6%)
建設機械運転工	50人(11.0%)	44人(9.6%)	42人(10.0%)
大工(型枠大工含む)	42人(9.2%)	53人(11.6%)	39人(9.2%)

建設ジュニアマスター

○ 被顕彰者の年齢構成

	令和2年度	令和元年度	平成30年度
平均年齢	36.4歳	37.3歳	36.5歳
最も多い年齢(人数)	37歳(20人)	38歳(22人)	38歳(16人)
最低年齢	29歳	29歳	29歳
最高年齢	46歳	44歳	46歳
～29歳の人数	1人	1人	2人
30～34歳の人数	29人	16人	26人
35～39歳の人数	66人	69人	61人
40歳以上の人数	13人	19人	12人
被顕彰者数	109人	105人	101人

○ 被顕彰者の主な職種

	令和2年度	令和元年度	平成30年度
塗装工	8人(7.3%)	6人(5.7%)	8人(7.9%)
建設機械運転工	8人(7.3%)	8人(7.6%)	8人(7.9%)
電気工	7人(6.4%)	8人(7.6%)	7人(6.9%)